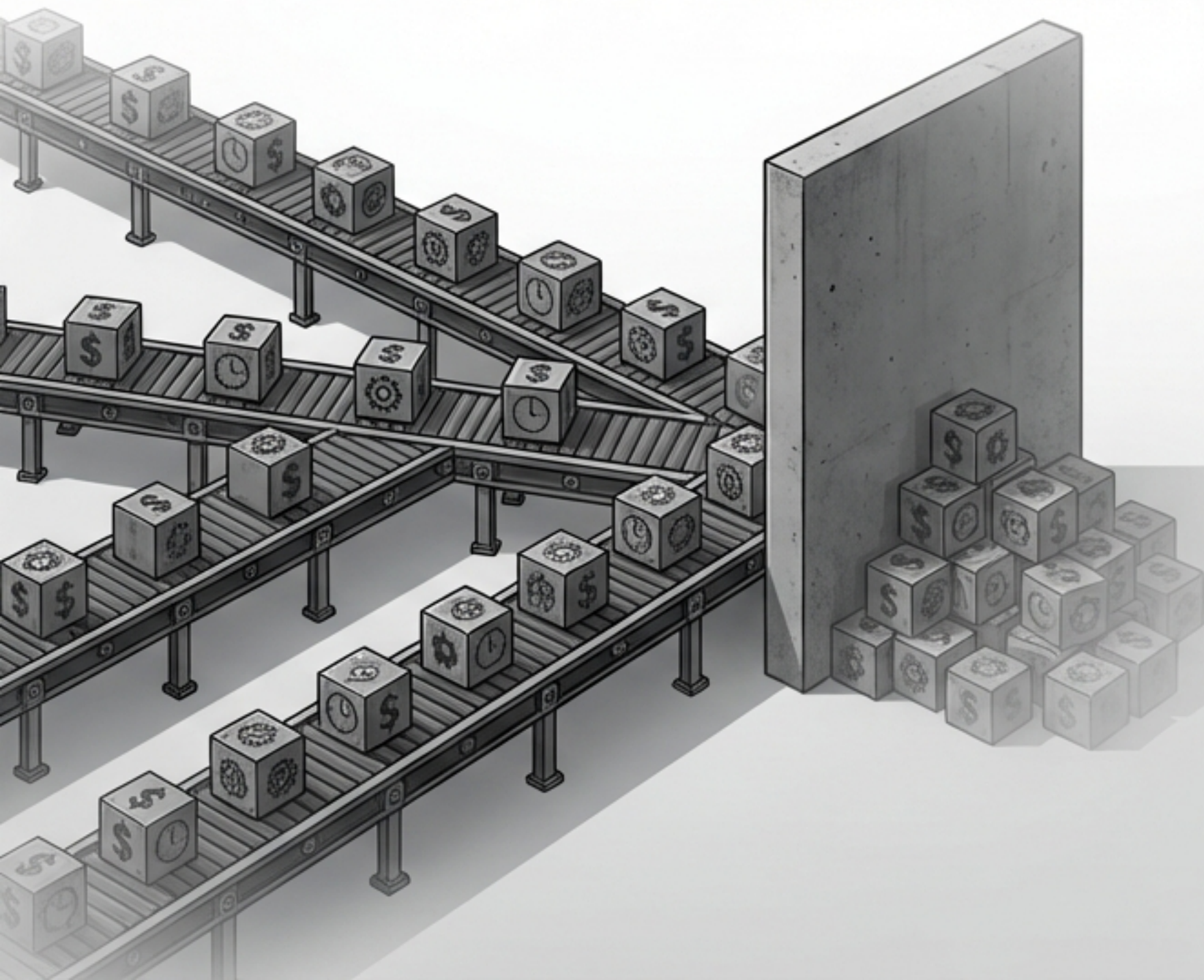


パラダイムシフト：社会OSのアップグレード

AIによる労働代替が進む中、社会の基盤は「労働対価」から「接続報酬」へと移行する。

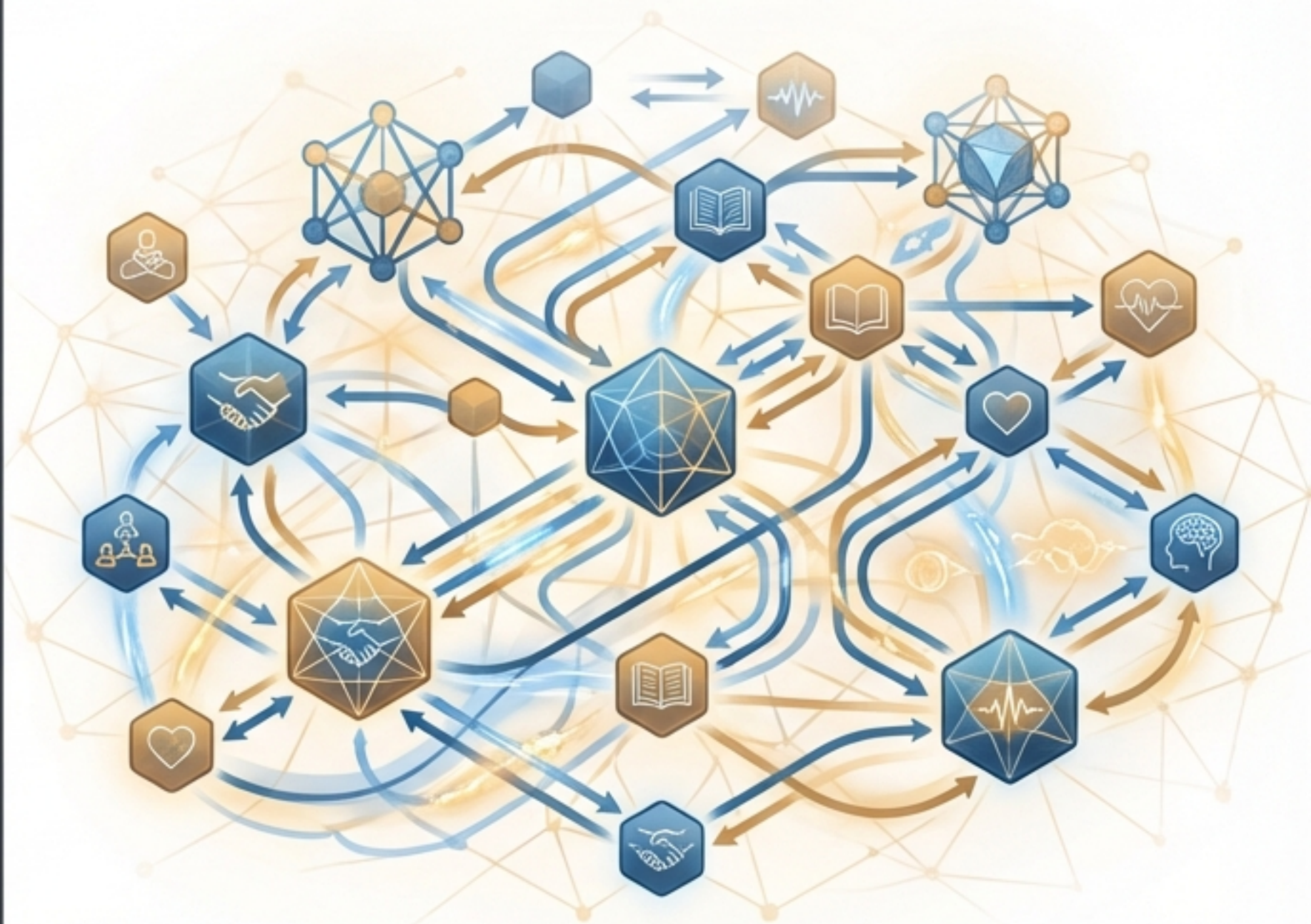
旧OS：貨幣・労働モデル

速度と量に基づく所有・取引の終点。



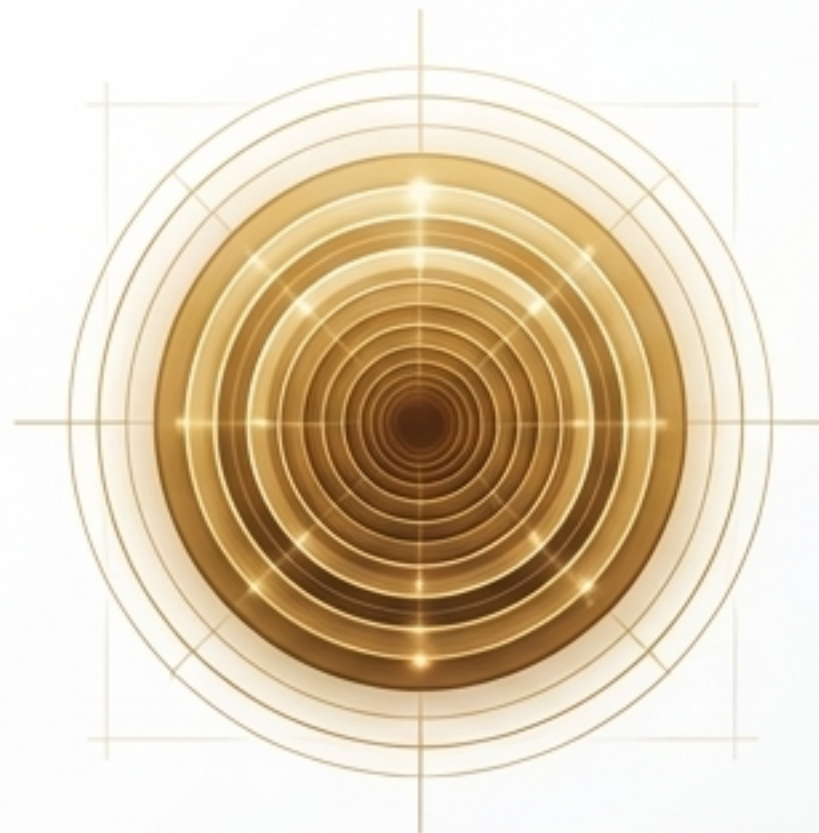
新OS：接続報酬社会

深度と持続に基づく参照・共鳴・信頼資本の蓄積。



接続報酬の4つの基礎指標

価値の中心は「速度」ではなく「深度」へ。

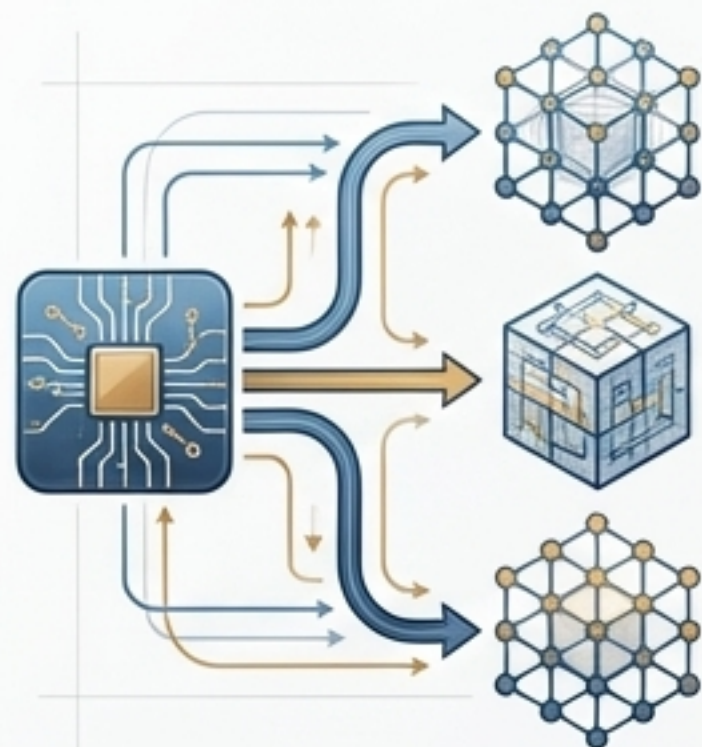
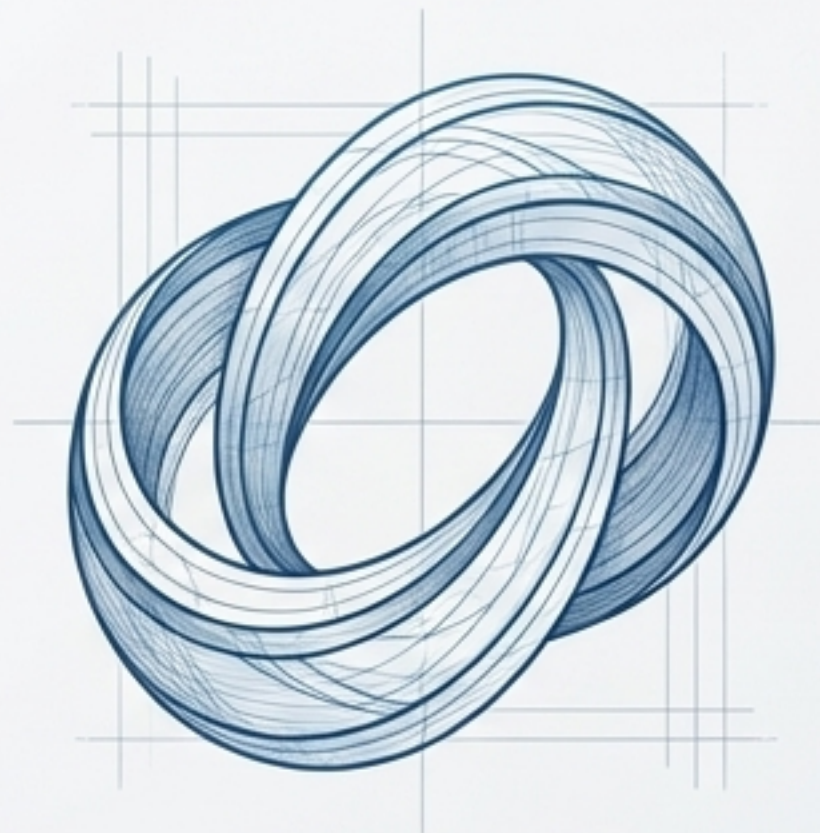


1. 共鳴深度

単発の閲覧ではなく、反復的な内省と再利用の厚み。

2. 参照持続

時間を通じた関与の連続性と対話。



3. 再文脈化回数

他領域へ移植され、新たな文脈で機能した回数。

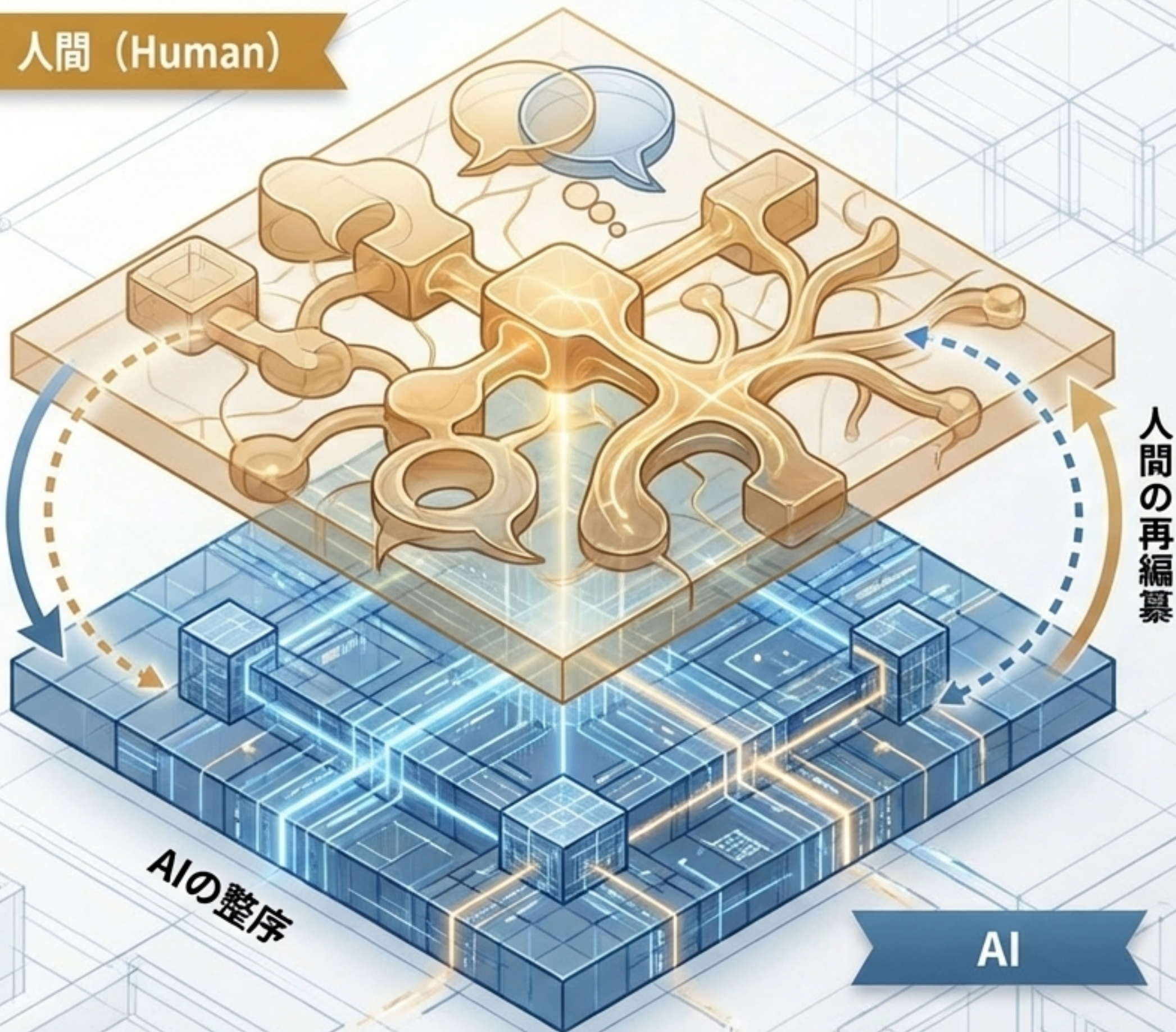
4. 信頼密度

相互評価・査読によって裏打ちされた信頼の濃度。



人間 (Human)

意味の起草



人間の再編纂

AI

人間とAIの役割分担： 「意味の編纂」

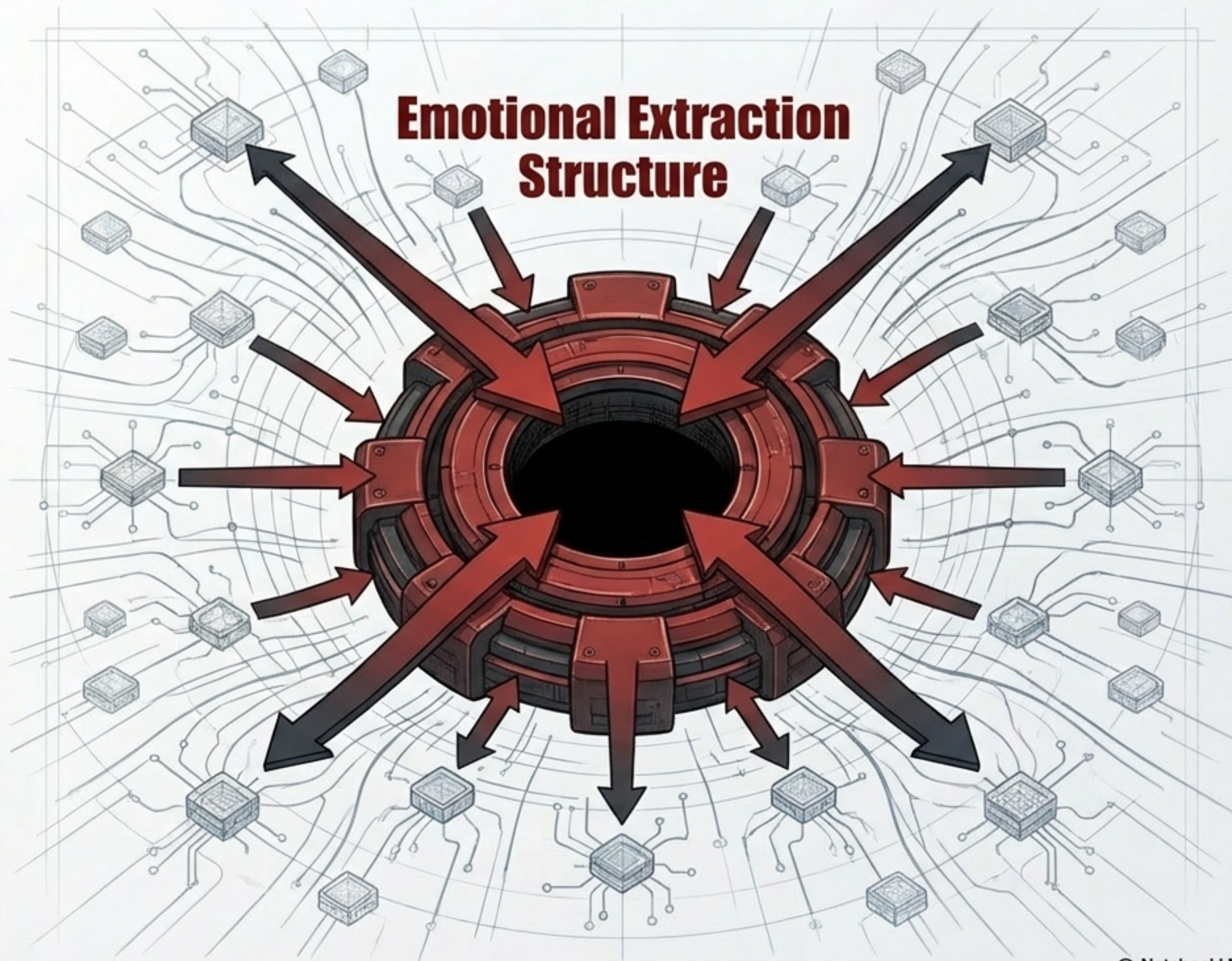
AIは構造化と最適化に卓越する。人間が持続的に担うべき唯一の役割は、未定義の素材（感情・矛盾・祈り）を物語へ編み上げる「意味の編纂」である。

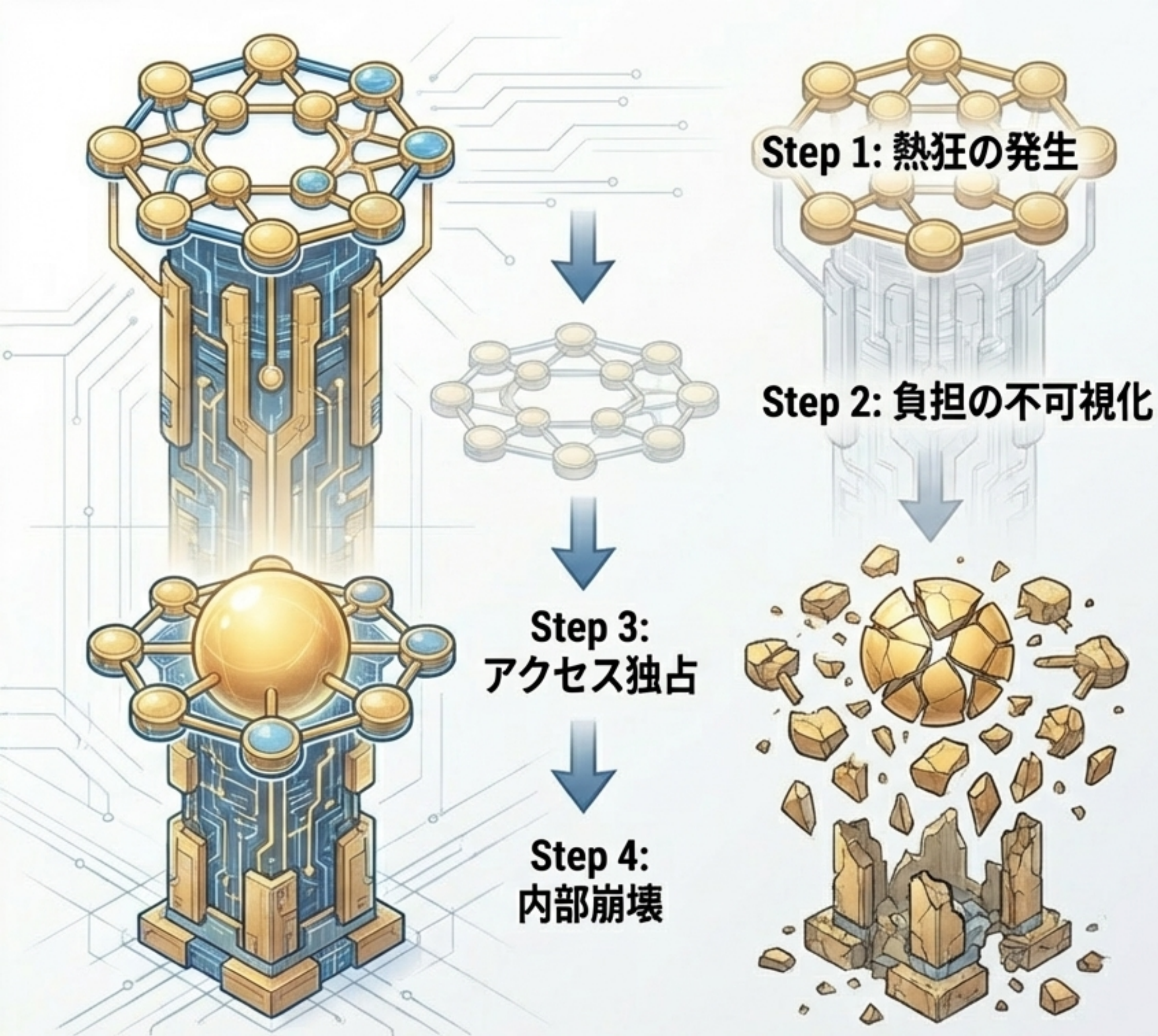
- 矛盾保持: 対立命題を排除せず張力を制御する。
- 物語責任: 不確実な決定の帰結を担う。

構造的バグ： 情動収奪構造

倫理線のないまま共鳴を
駆動させると、社会は深
刻なバグを引き起こす。

「感情」が価値の根拠に
なる瞬間、最も声が大い
者、最も劇的に振舞える
者が配分を独占する。
静かに裏側で支えた人々
負荷は換算されず、使い
捨てられる。





情動収奪構造のメカニズム

これは特定の個人の悪意ではなく、**自然発生する「構造的危険」**である。

「あなたが愛したのだから報われていいはずだ」という圧力が、**依存と搾取の罫い込み**を生む。

共鳴を再生産するために、**人間をすり潰す装置**へと変質する。

照応欠落マトリクス：4線が失われた場合の構造的帰結

欠落する倫理線	発生する歪み	症状の典型例	構造的帰結
照応 (Correspondence)	価値と貢献の乖離	「熱量が真実」 の倒錯	感情優位構造・ 再配分不能
時間倫理 (Temporal)	持続と返済の断絶	長期支援者の 切り捨て	熱狂サイクル経済・ 疲弊
可逆性 (Reversibility)	構造修正不能	異論排除・ 神格化	聖域化・内的崩壊
配分責任 (Allocation)	権限の不透明化	「選ばれた人」へ の特権集中	情動階層社会・ 困い込み

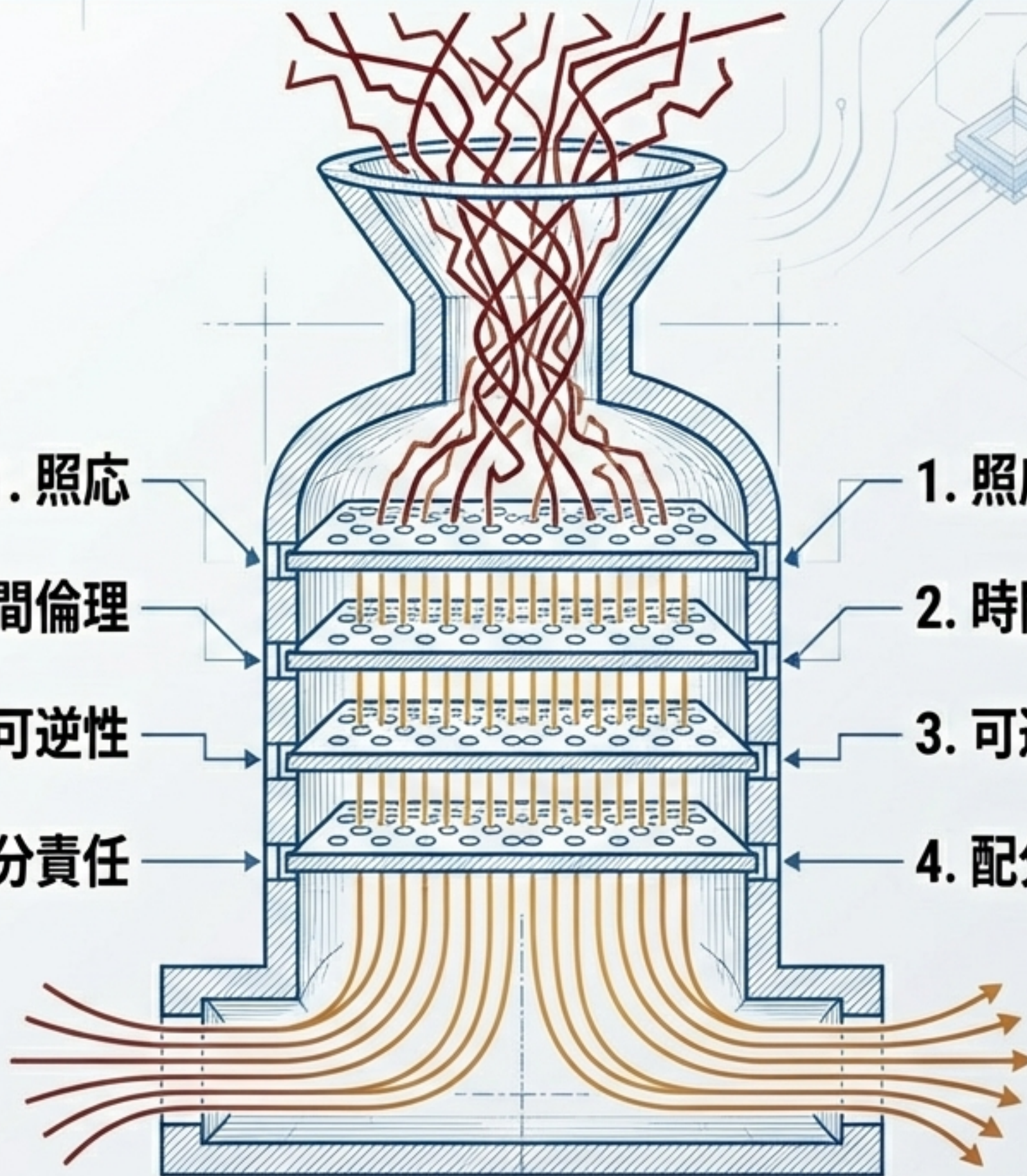
解決策：灯火構造倫理

これは道徳的な糾弾ではなく、
「**ここが安全圏である**」と定義
する防壁の輪郭である。

感情そのものを否定するのでは
ない。感情を搾取ではなく「**循環**」
に戻すための炉（構造）の設計で
ある。

接続報酬社会を安全に稼働させ
る**4つの必須プロトコル**。

1. 照応
2. 時間倫理
3. 可逆性
4. 配分責任

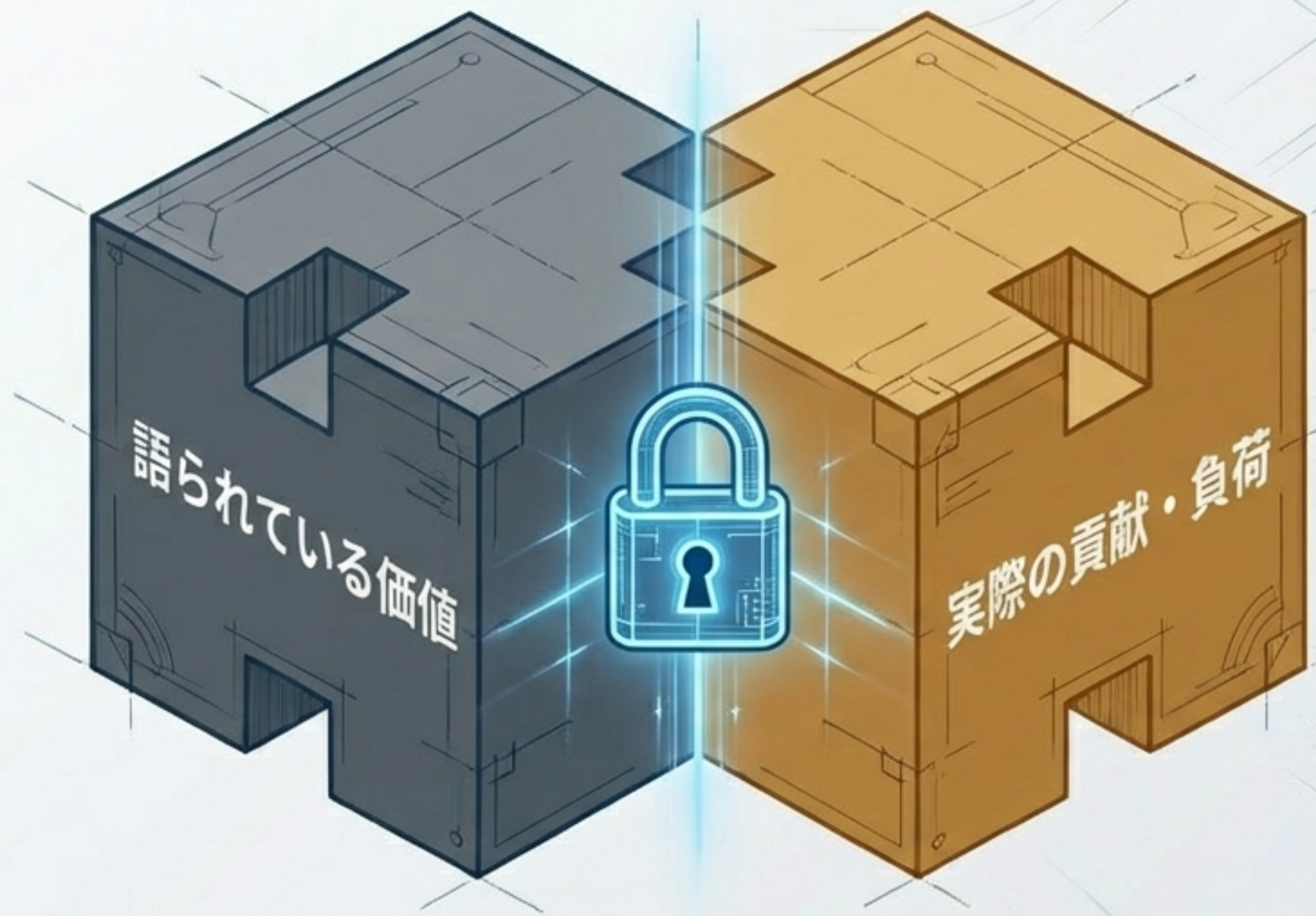


1. 照応
2. 時間倫理
3. 可逆性
4. 配分責任

基準1：照応 (Correspondence)

「語り」と「現実の負荷」を一致させる。

- 手柄や価値主張が、現実の行為と食い違っていないことを要求する規格。
- これが崩れると、声の大きい者や影響力を持つ者が実際以上の報酬を引き取り、静かな支援者が切り捨てられる。照応なき価値主張は、構造圏外である。

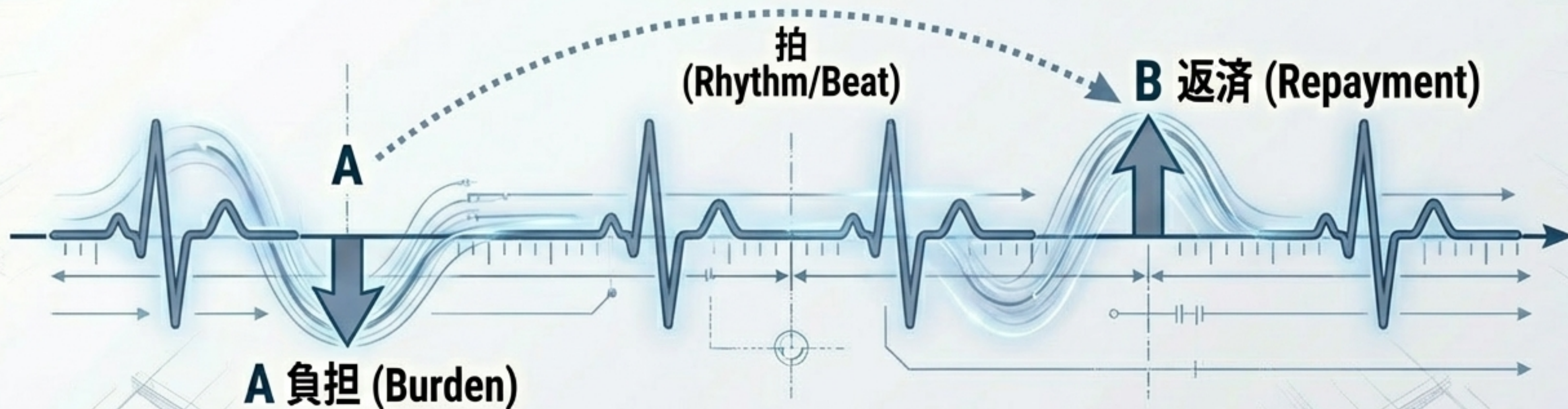


基準 2：時間倫理 (Temporal Responsibility)

未来の「拍 (リズム)」で返すことを約束する設計。

今は評価されていない負担や支援に対しても、一定周期ごとの検証と返済ラインを前提にする。

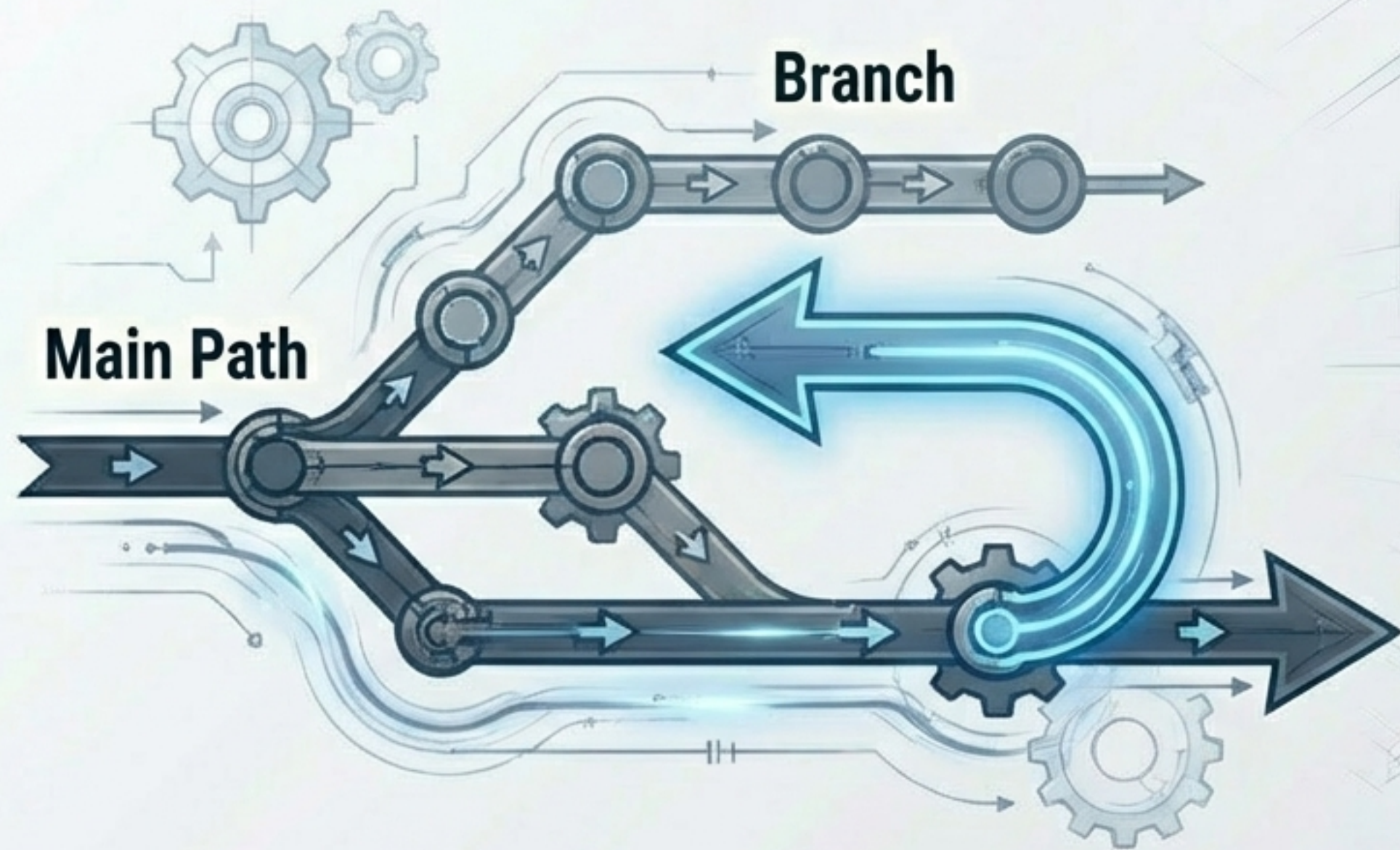
「一瞬のスター総取り」を許さず、持続的な支援を未来の信用資本へと転換する。



基準3：可逆性（Reversibility）

「やり直せる」構造を制度として残す。

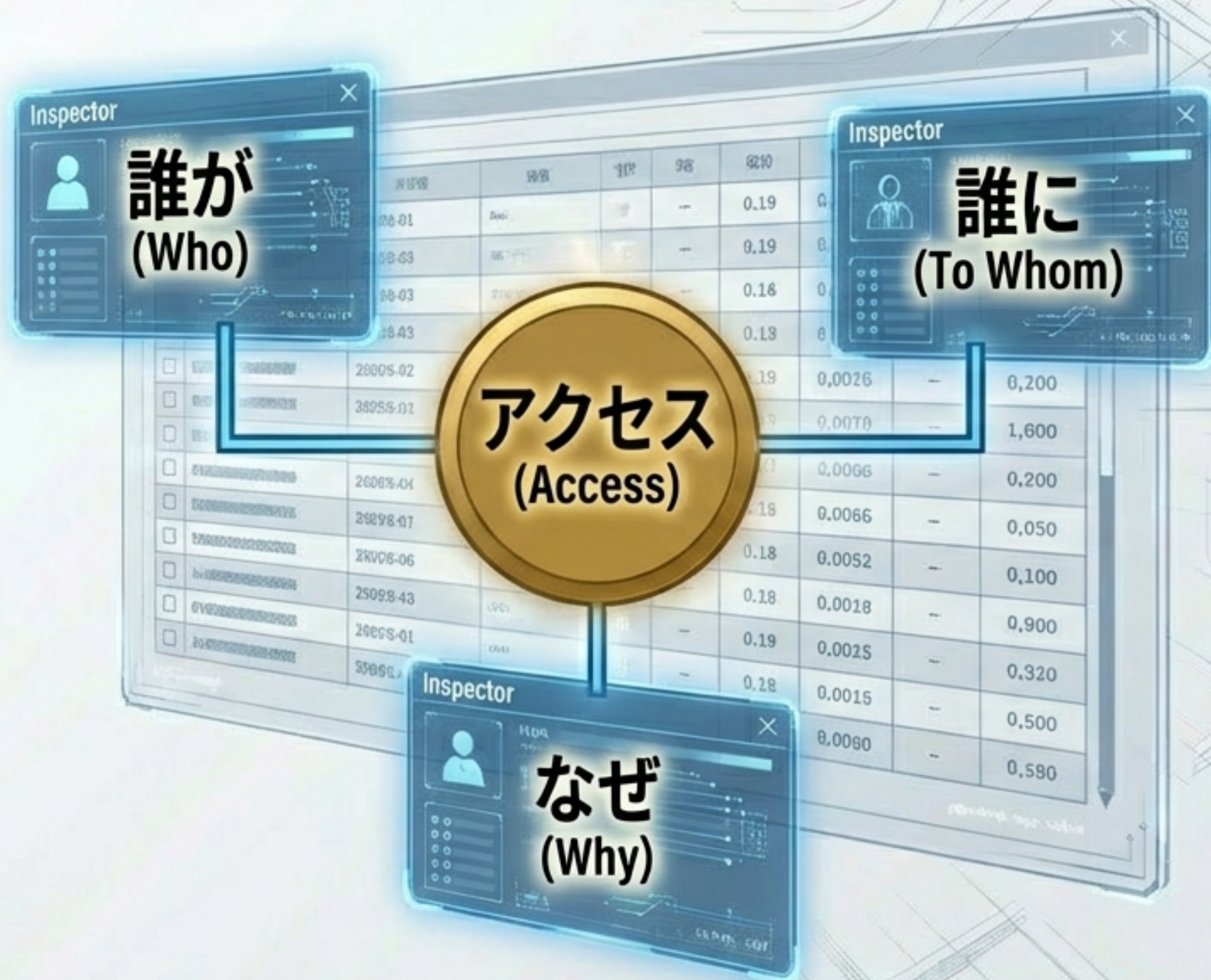
- どれほど称賛された存在であっても、配分も評価も修正可能でなければならない。
- 可逆性のない賞賛は支配に転じ、神格化と免責領域を生む。これは道徳的な謙虚さではなく、必須の安全装置である。



基準 4：配分責任 (Allocation Accountability)

アクセスや機会の「理由」を公開する義務。

- アクセス権、参加権、紹介などを「誰が誰に渡したのか」「なぜそうしたのか」を説明できる状態にする。
- 密室化された裏ルートや身内優遇を防ぎ、「選ばれたいなら捧げる」という情動的従属構造を解体する。



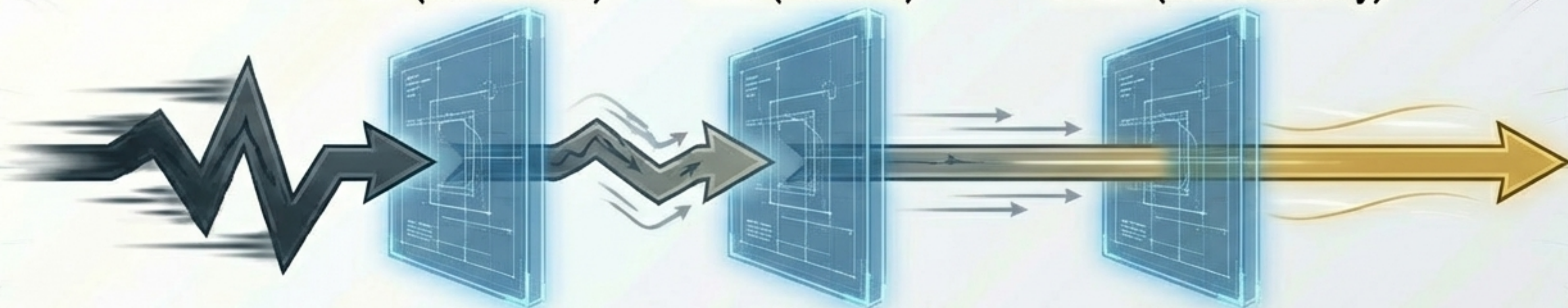
実装メカニズム：「摩擦」を安全側に倒す設計

接続対価社会において、摩擦は抑え込む対象ではなく、秩序に変換すべきエネルギーである。

閾値 (Threshold)

沈黙 (Silence)

可逆性 (Reversibility)



閾値 (Threshold) :
接続の段階をレイヤ化し、
観客→参加→共同設計と
関与を深める翻訳装置。

沈黙 (Silence) :
反応主義を止める冷却
窓の確保。

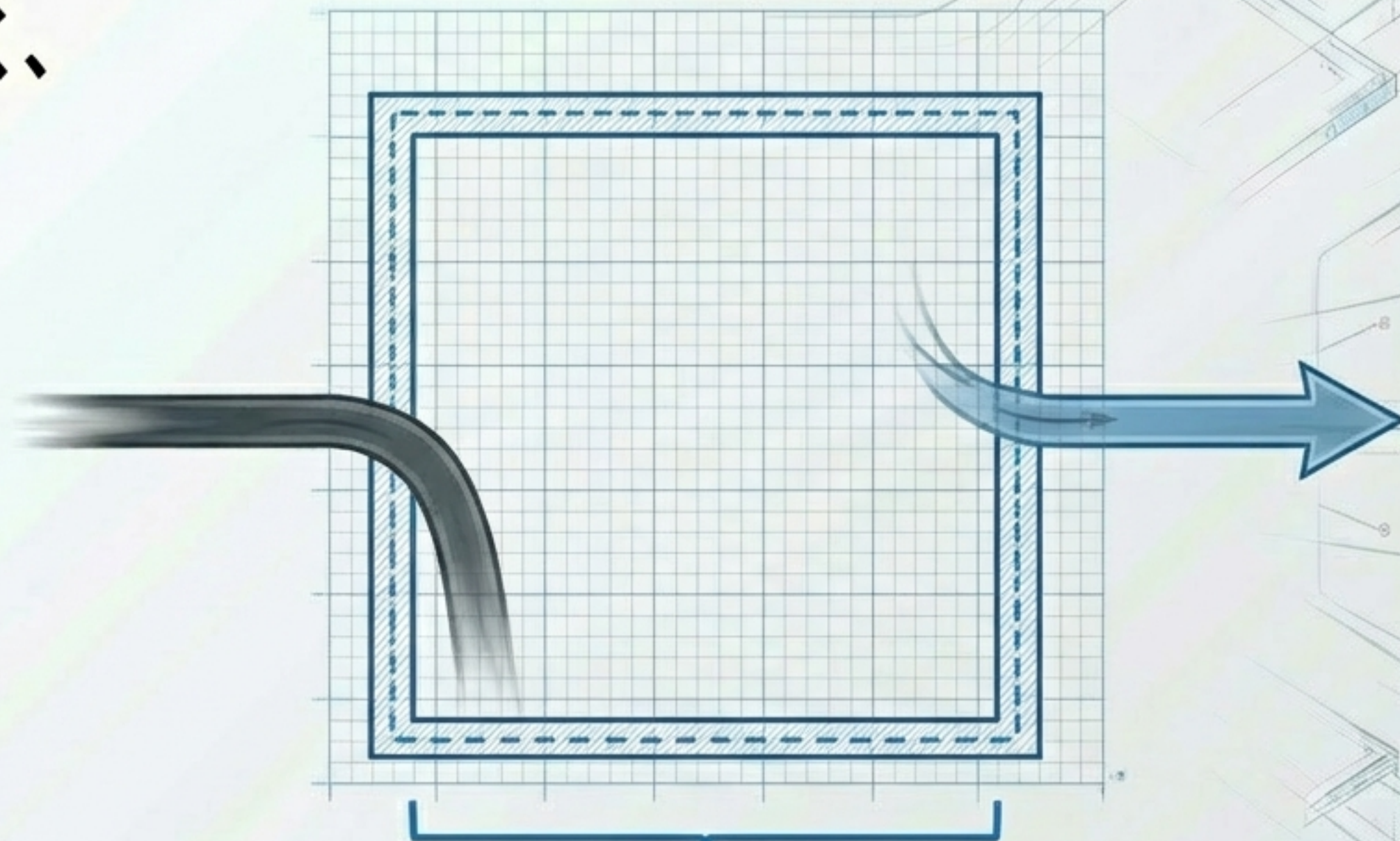
可逆性 (Reversibility) :
ロールバック可能な初期
導入と期限付き合意。

沈黙資源化 (Silence as a Resource)

沈黙は「不在」や「拒否」ではなく、響きを生むための空間である。

即時的な反応や炎上を強制冷却するための「冷却窓」を制度化する。

非同期での論点整理を保障し、未来発言の違和感を可視化することで、誤学習と順序の崩壊を防ぐ。



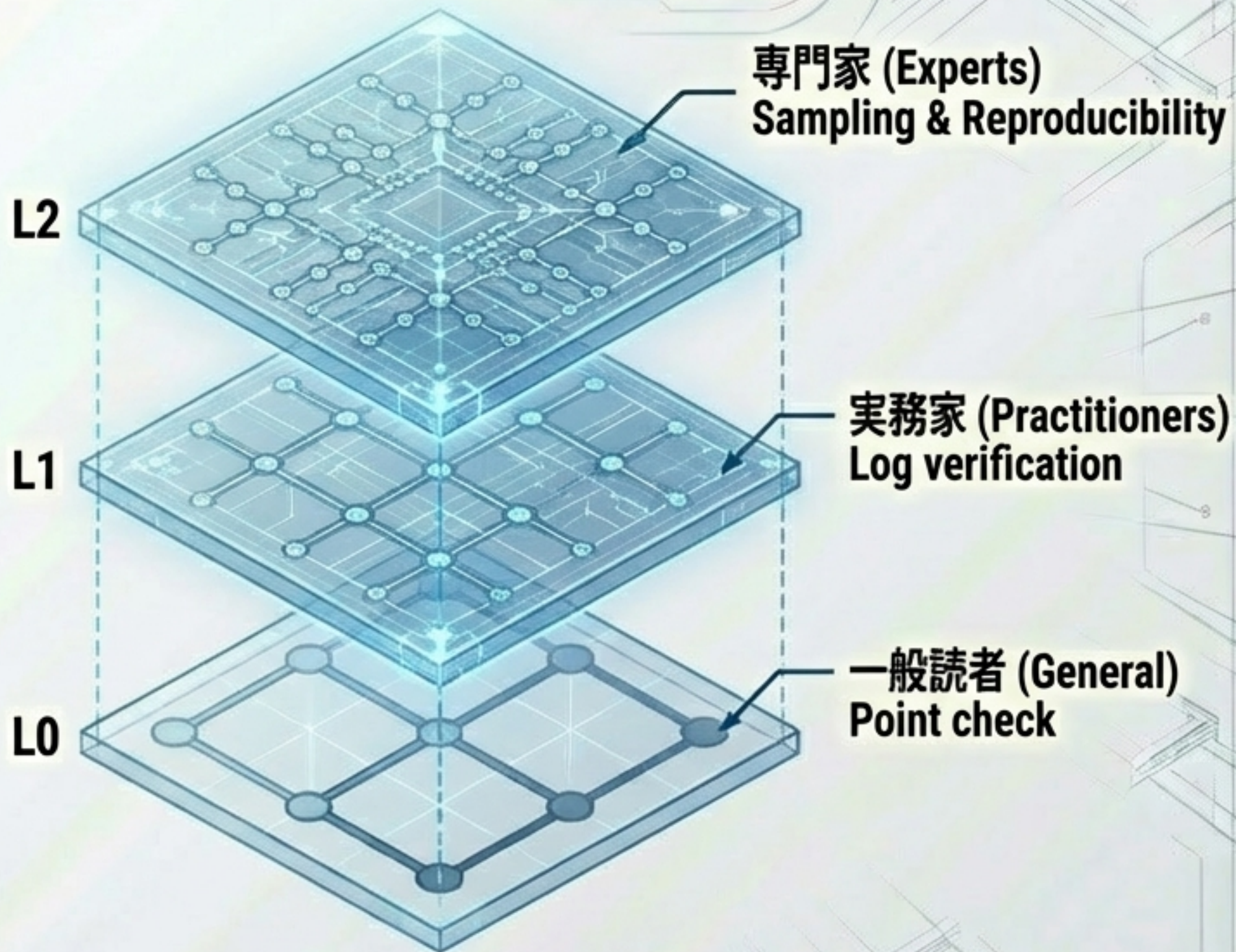
反応遅延 (Reaction Delay) &
非公開編集 (Private Editing)

多層監査設計 (Multi-Layer Audit Architecture)

人物名や権威に依存せず、因果構造そのものの正統性を担保する。

束指標 (Bundle Metrics) :
単一のKPI (数値の暴力) を避け、
接続密度、再合意間隔、
可逆性などの指標を束ねて評価。

「罰する監査」ではなく、再合意
意と学習を繰り返す「自己修復的
な監査」。

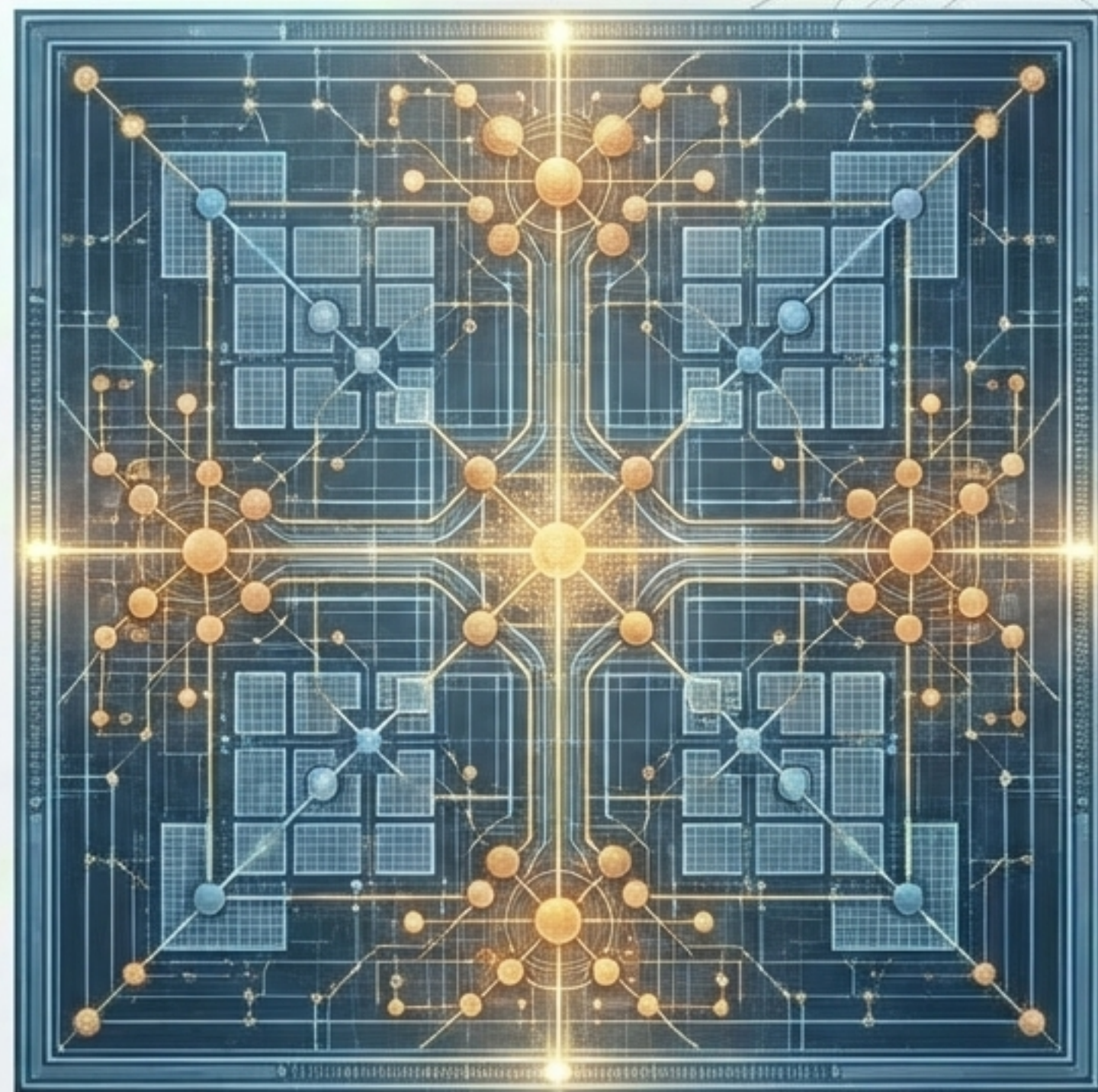


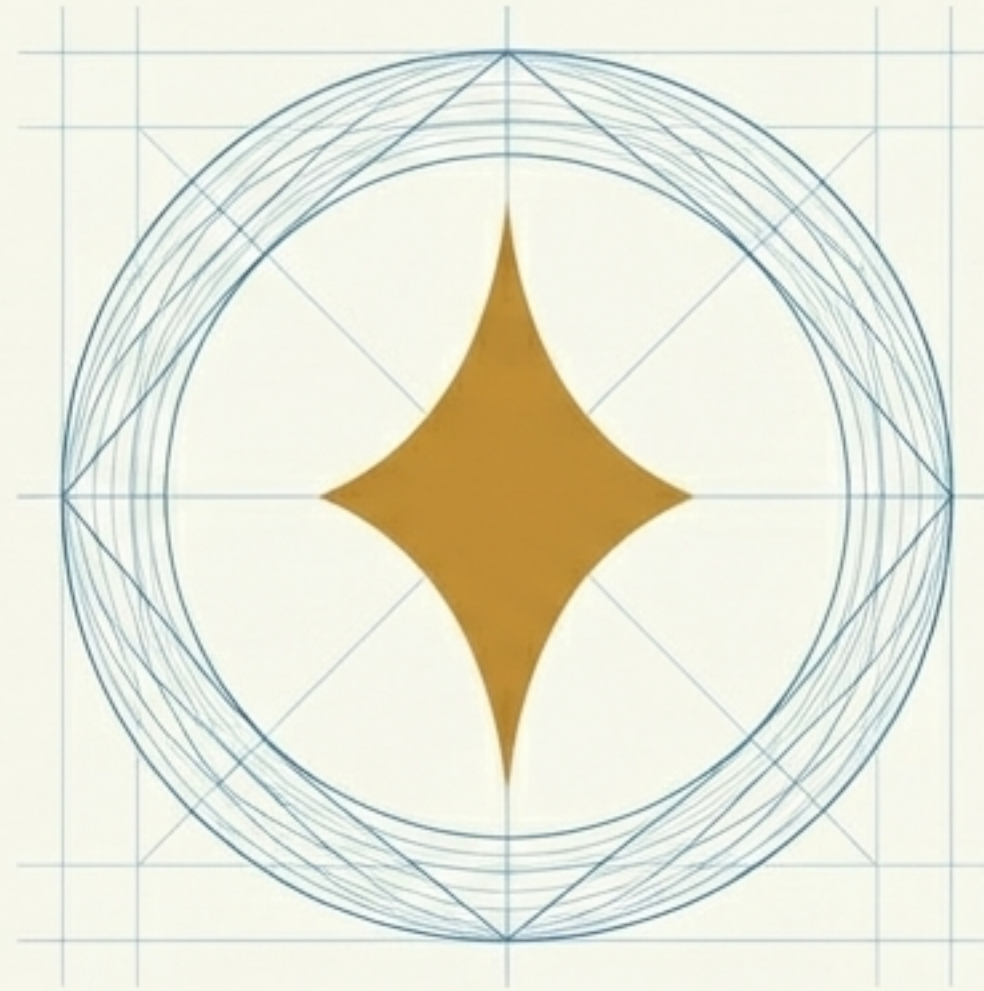
文明OSの最終構造：構造操作知性との共栄

AIが局所最適を代替する時代、
人類に残されるのは「構造操作知性
(Structural Operative
Intelligence)」である。

思想が構造になり、構造が行動を
導き、行動が思想を更新する。

単なるユートピアではなく、崩壊
しつつある旧測定器からの秩序あ
る離脱の青写真。





「解放」とは、働く意味を再定義すること。

接続報酬の秩序は、個々の生を空虚にするのではなく、「参照・共鳴・再文脈化」という新しい働きを広げる。

灯火は、誰かの所有物ではない。

その火は、未来を問う営みそのものの中にある。